

# 福岡県のこども食堂の活動に関する アンケート調査結果について（報告）

令和5年2月

福岡県こども食堂ネットワーク

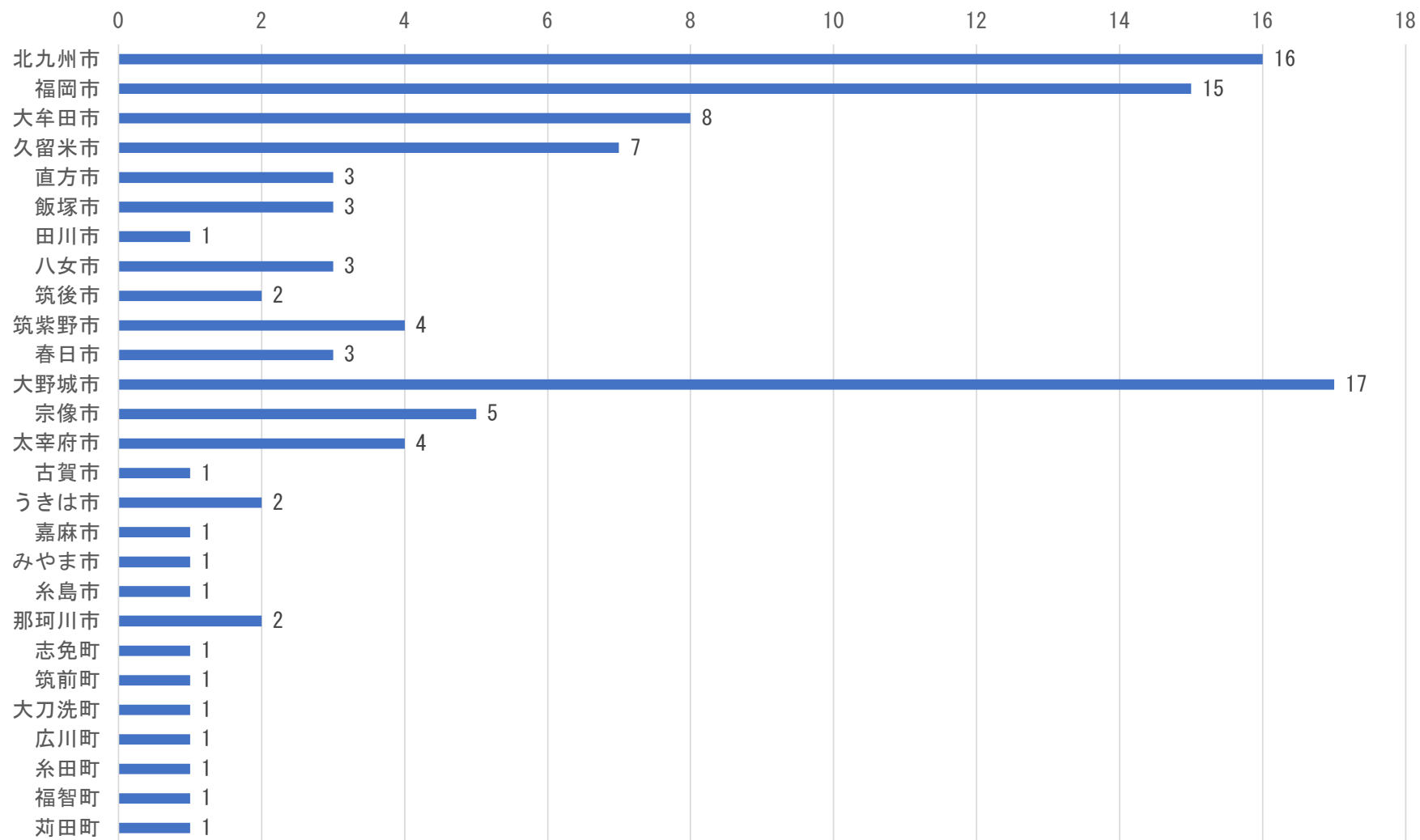
# こども食堂実態調査アンケートの概要（最終）

## 【調査目的】

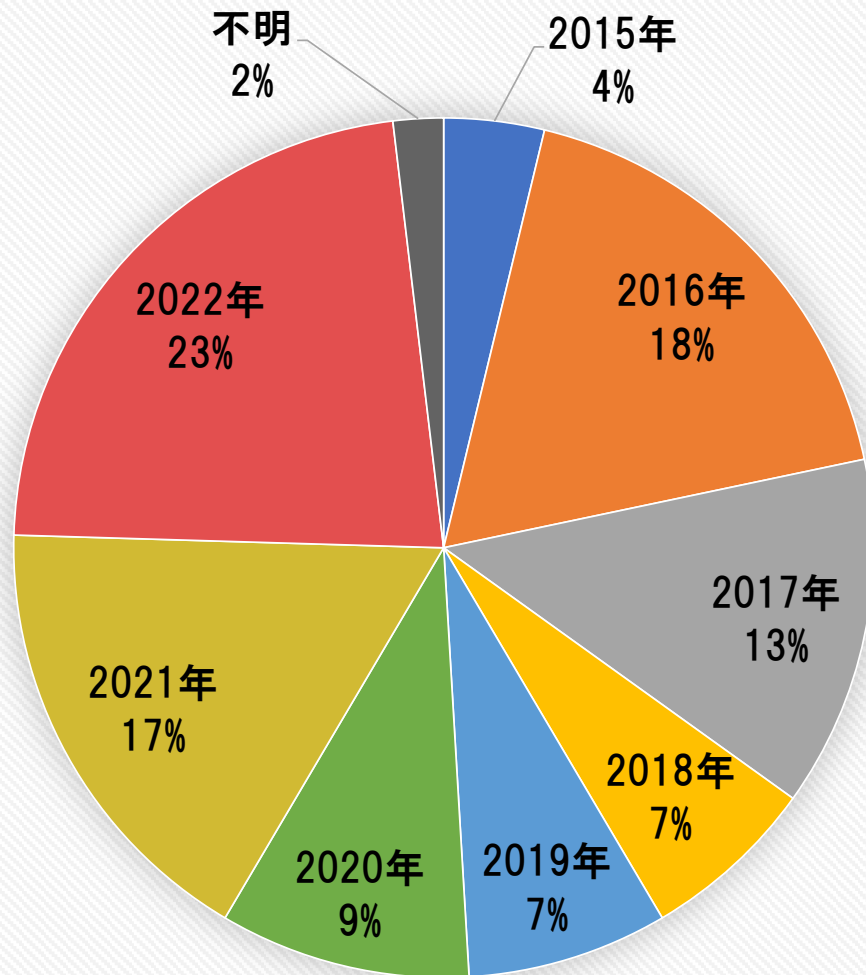
子どもの食育や居場所づくりなど様々な役割を担う「こども食堂」について、運営する団体・個人の方に対し、運営実態や新型コロナウイルス感染拡大の影響等を把握するため実施したもの。

項目	概要
アンケート対象	● 県内でこども食堂を運営されている団体・個人 ※ 主な活動内容がこども食堂以外でも対象。 ※ 調査日時点で活動を休止されている方も対象。
調査期間	● 令和4年12月19日～令和5年1月31日
調査内容	① 団体の概要、活動内容、参加者の概要、運営関係 ② 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応や変化 ③ 行政に求める支援
調査方法	以下、3つのルートによりアンケートを周知、実施 ① 福岡県こども食堂ネットワークより直接加入団体・個人へ依頼 ② 県社協→市社協→こども食堂を運営している団体・個人あて依頼 ③ 県庁→市町村→こども食堂を運営している団体・個人あて依頼
有効回答数	● 106団体（個人を含む）

# 1 市町村別の回答したこども食堂の数 <n=106> ※1つ選択

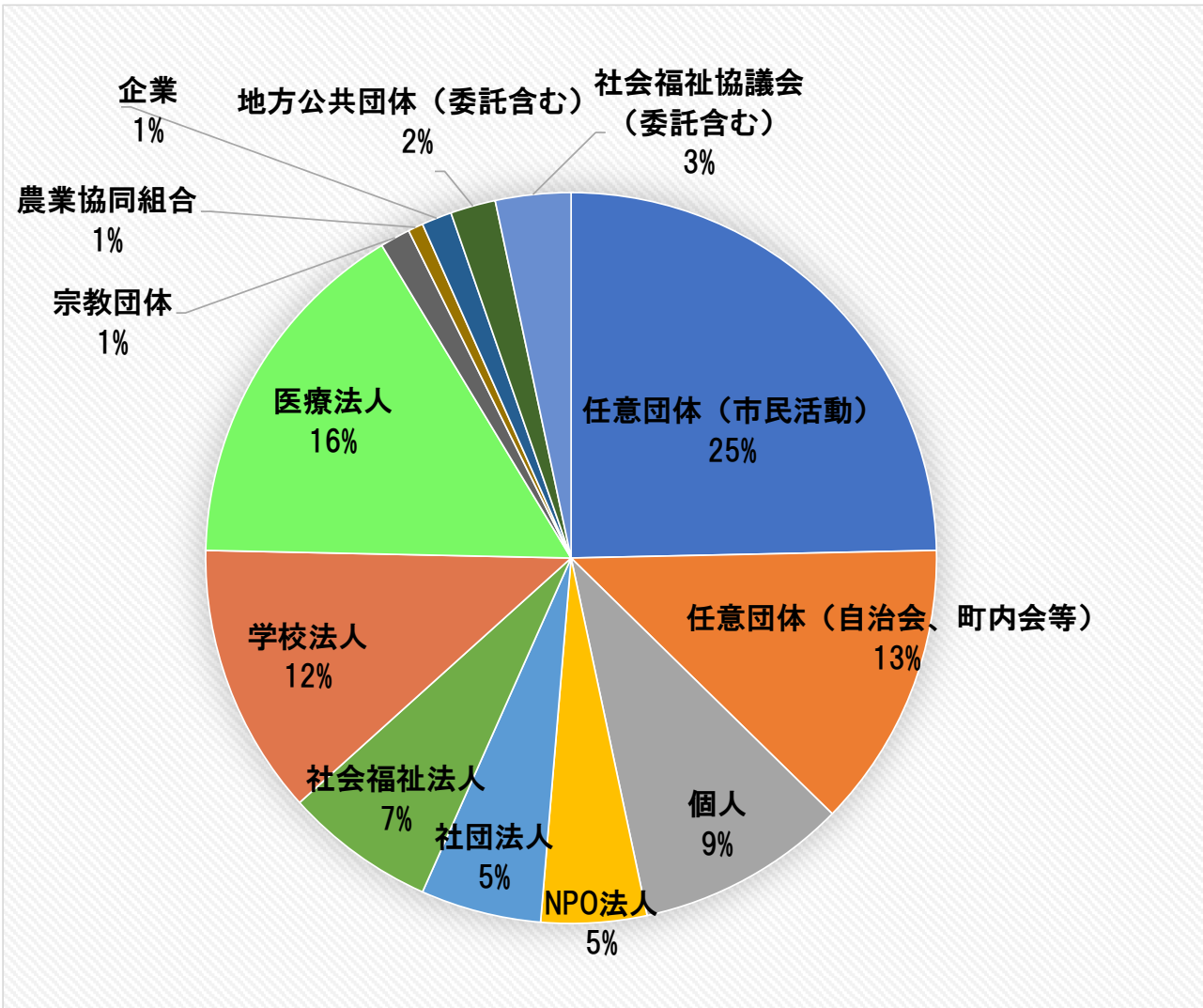


2 こども食堂の開始年 <n=106> ※1つ選択



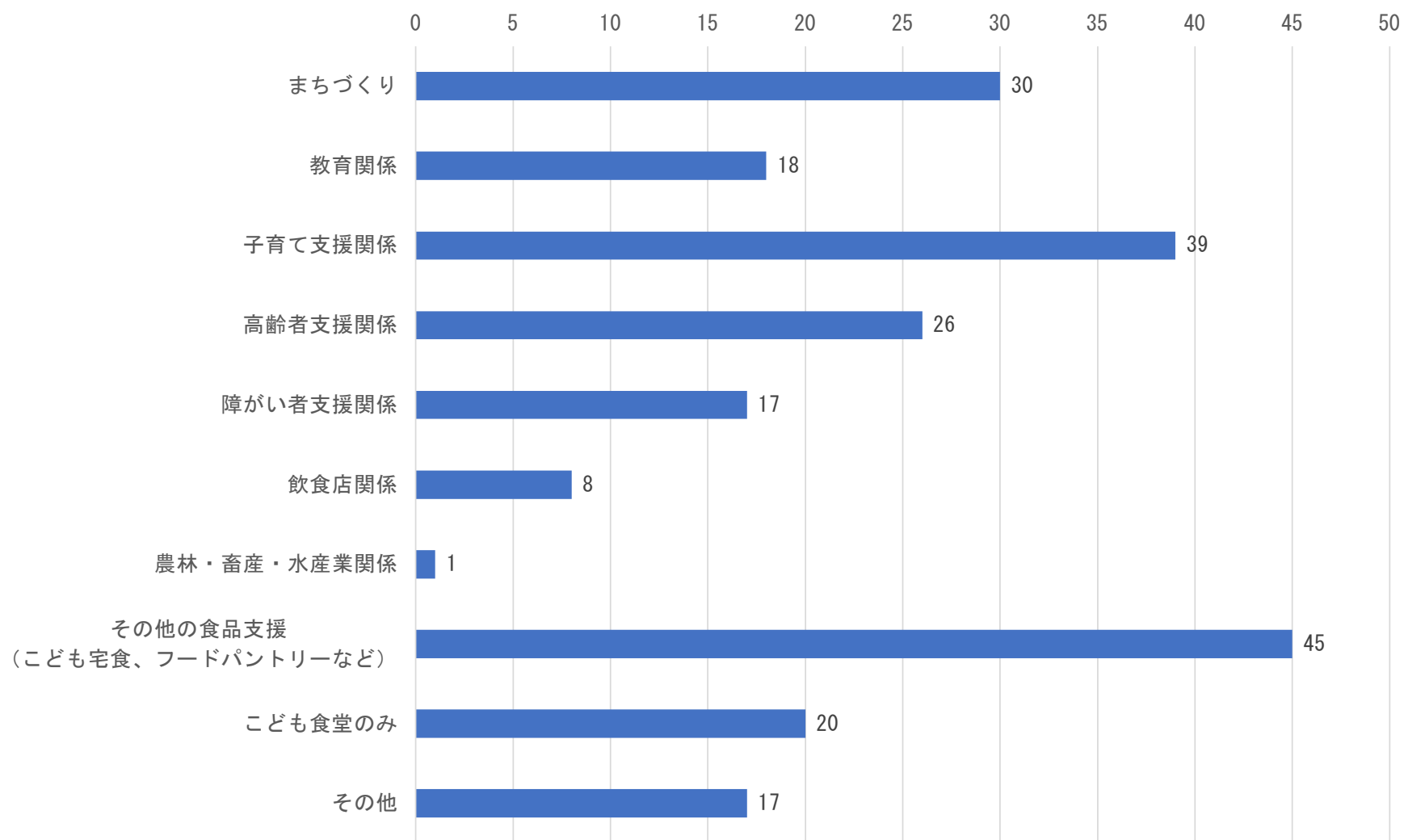
本アンケートに回答したこども食堂のおよそ半数近くがコロナ禍以降に開始をしている。  
開始年の割合が最も多いのは2022年の23%。

### 3 団体の運営主体について <n=106> ※1つ選択

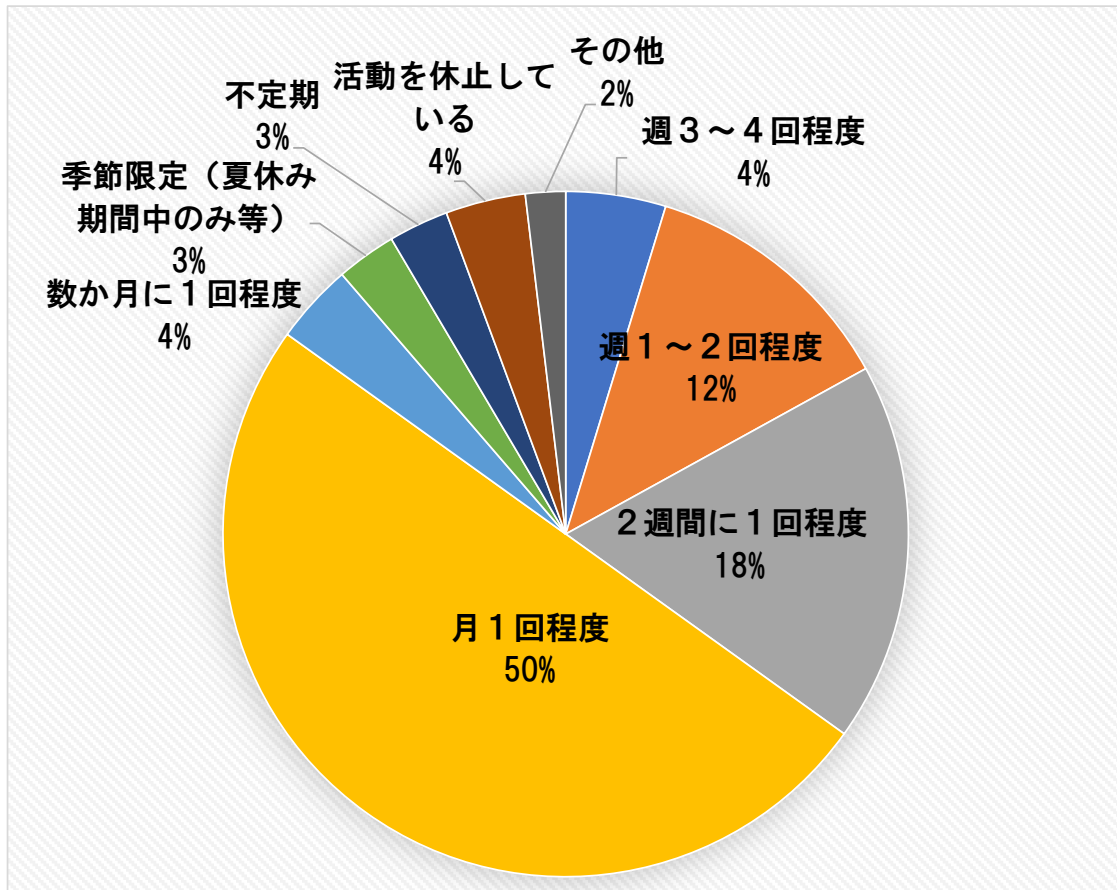


運営主体は4割近くが任意団体となっている。

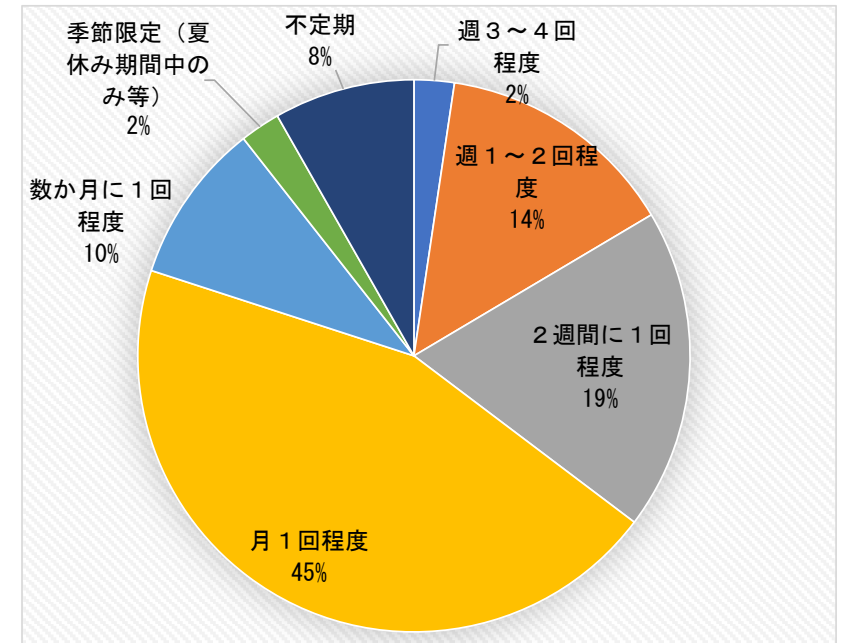
#### 4 団体のこども食堂以外の活動内容 <n=221> ※該当すべて選択



5 こども食堂（フードパントリーや弁当配布を含む）の開催頻度について <n=106> ※1つ選択

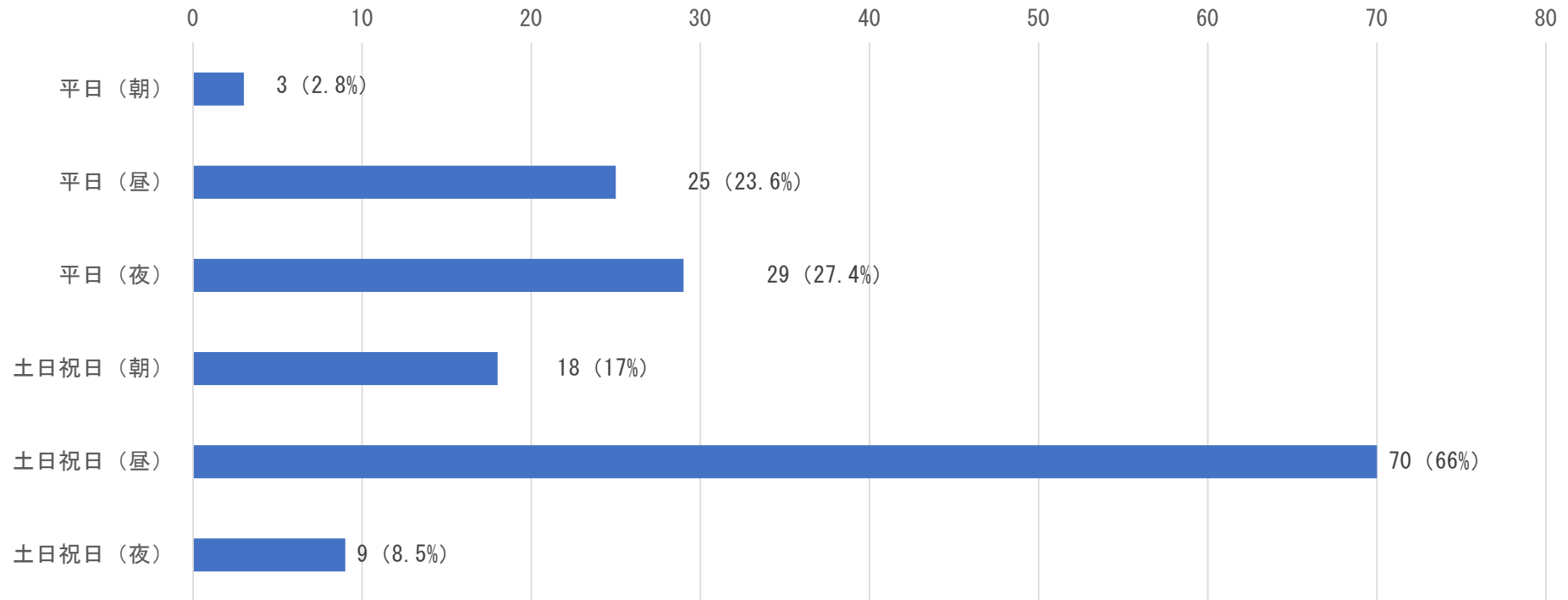


（参考）2021年度調査結果（n=85）



こども食堂の開催頻度は昨年度と大きな変動はない。

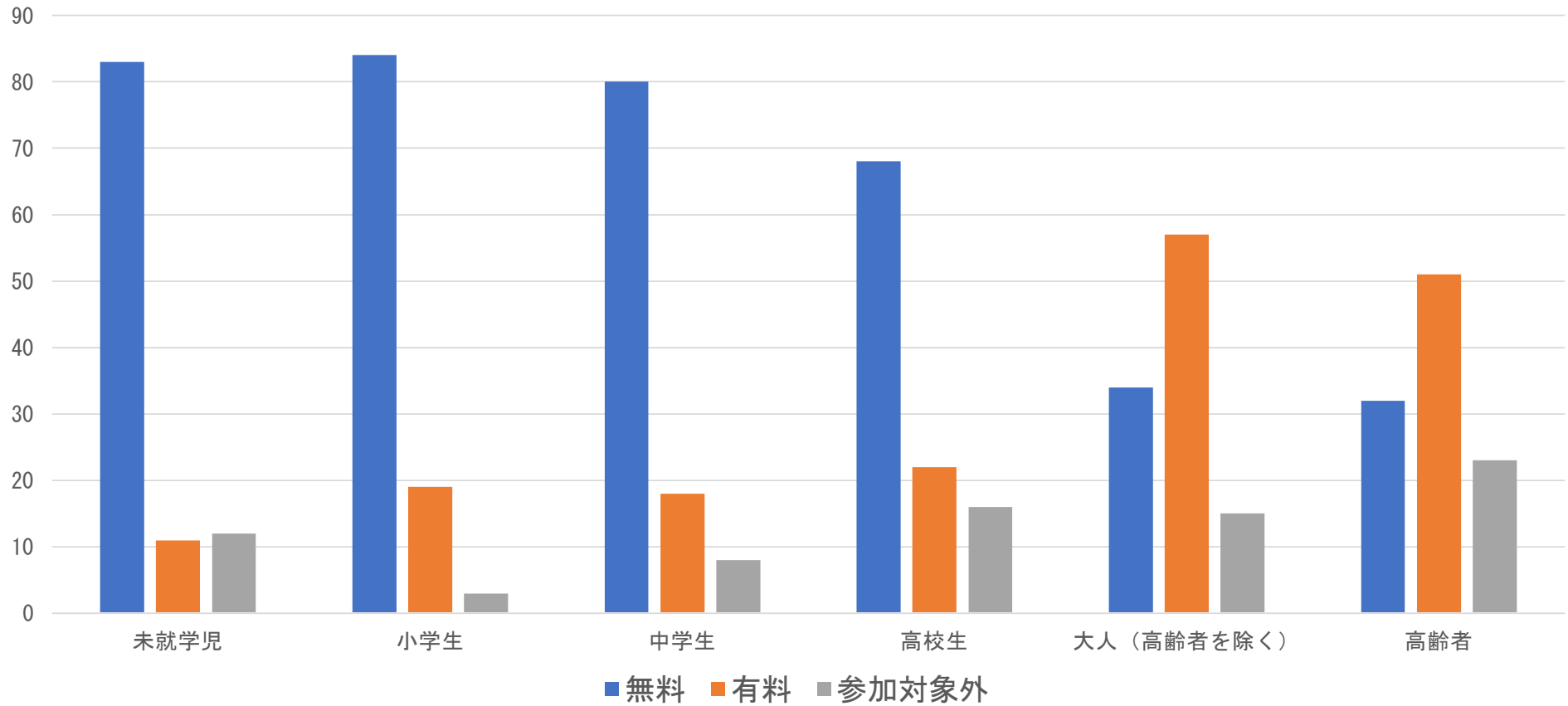
## 6 活動する曜日・時間帯 <n=154> ※該当すべて選択



活動する曜日、時間帯で最も多いのが、土日祝日の昼間で全体の約3分の2となっている。

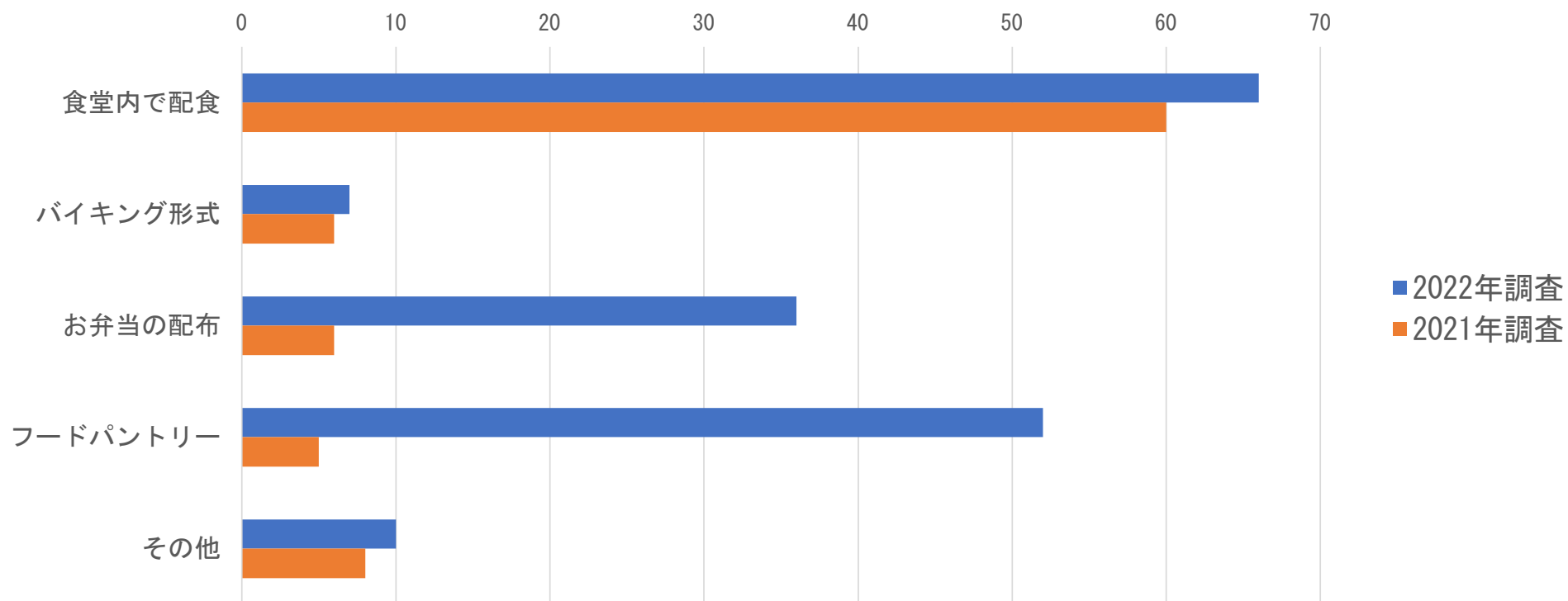


## 7 年代別の参加費について <n=106> ※それぞれ1つ選択



高校生以下は無料、大人は有料が多くなっている。

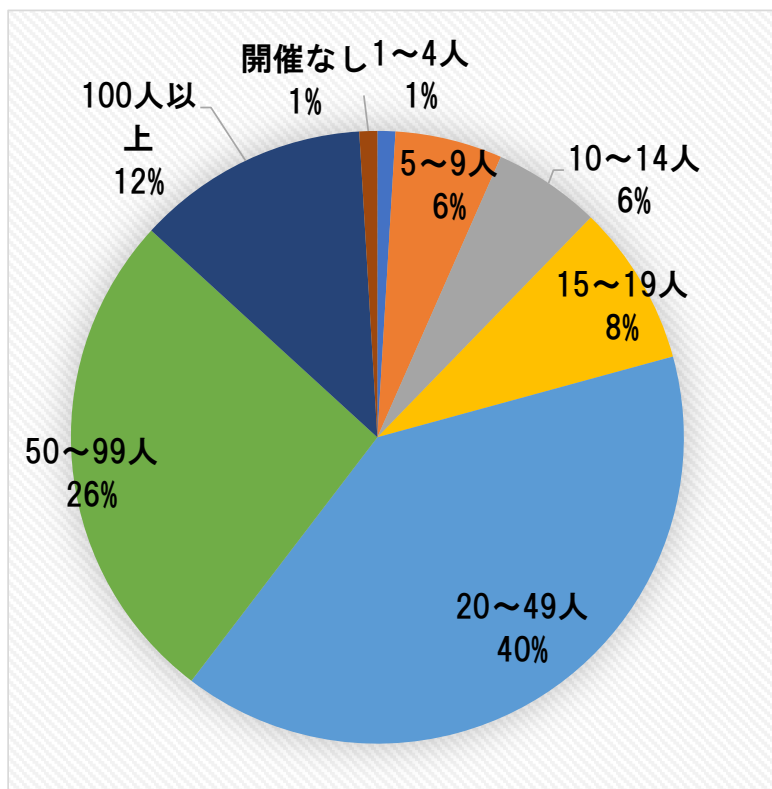
8 食事の提供方法について（複数回答可） <n=171>  
※2021年調査<n=85>については回答は一択のみ



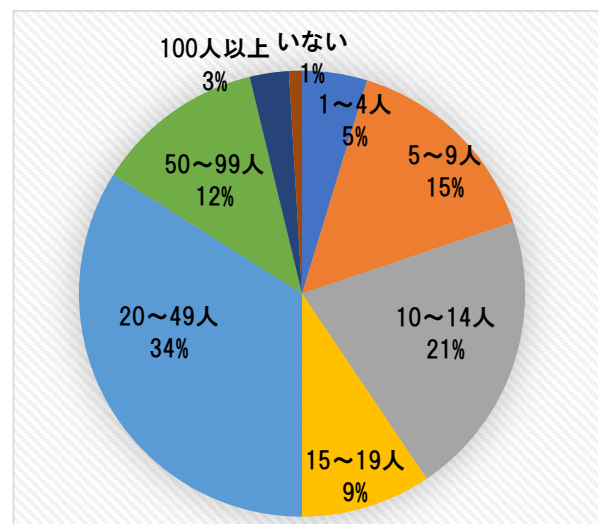
昨年度と質問の方法が異なっており、単純な比較はできないが、フードパントリーとお弁当の配布が増加している。これは新型コロナウイルス感染症対策への対応と考えられる。また食堂内で配食とフードパントリーを組み合わせるなど工夫して開催していることも食堂も見られる。

9 1回あたりの参加人数 <n=106>  
 ※それぞれ1つ選択

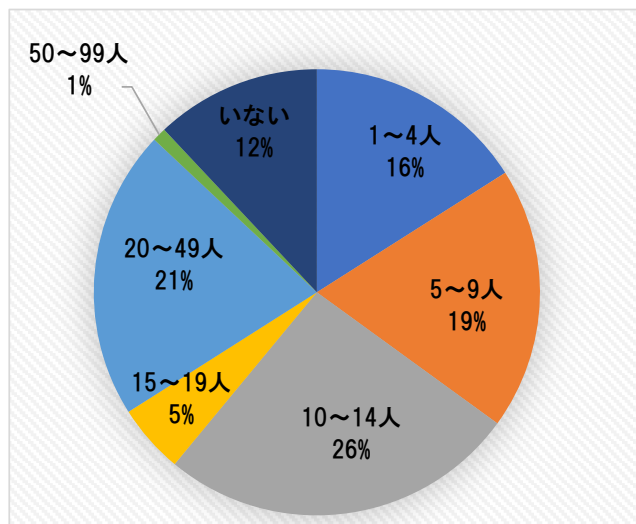
【全体】



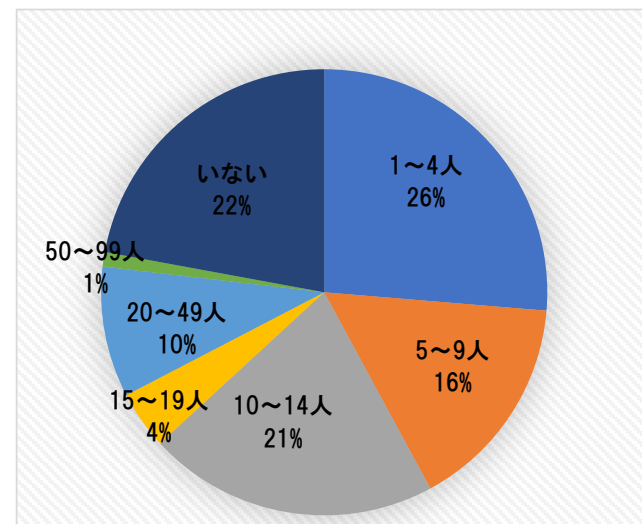
【子ども（20歳未満）】



【大人（20~65歳未満）】

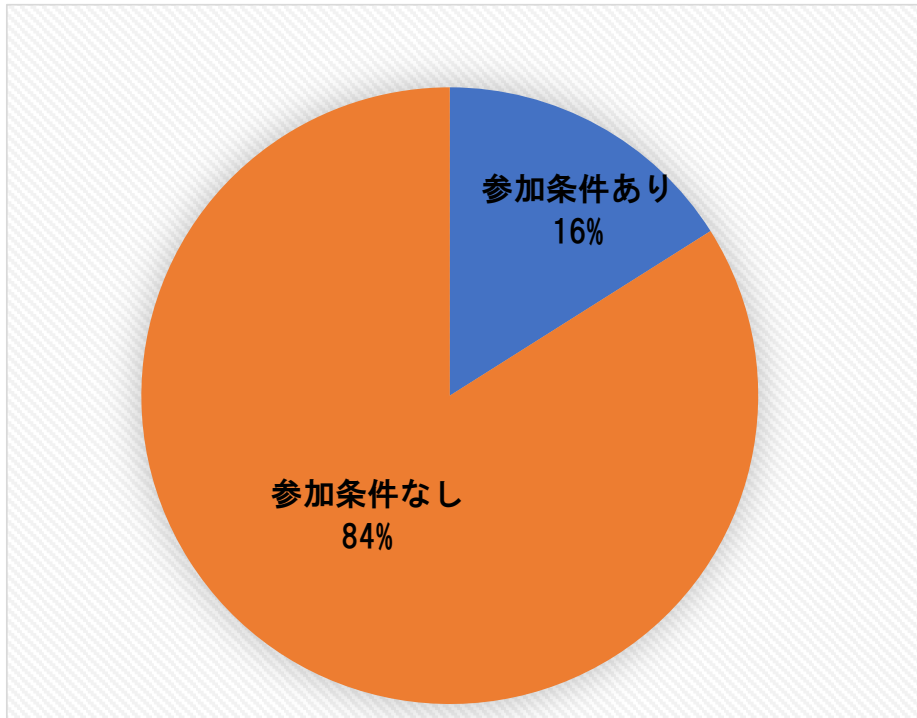


【高齢者（65歳以上）】



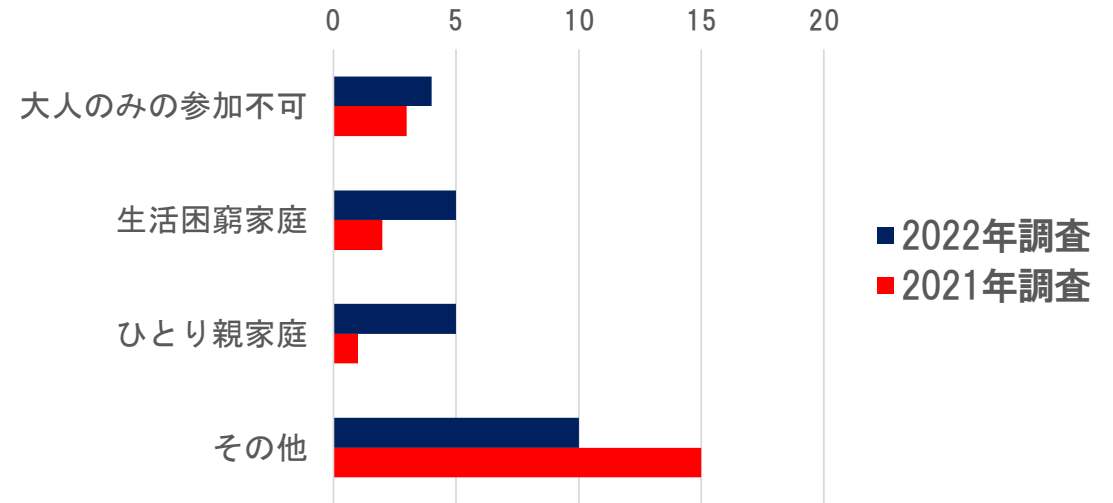
## 10 参加条件の有無及び条件内容

【参加条件の有無】 <n=106> ※1つ選択



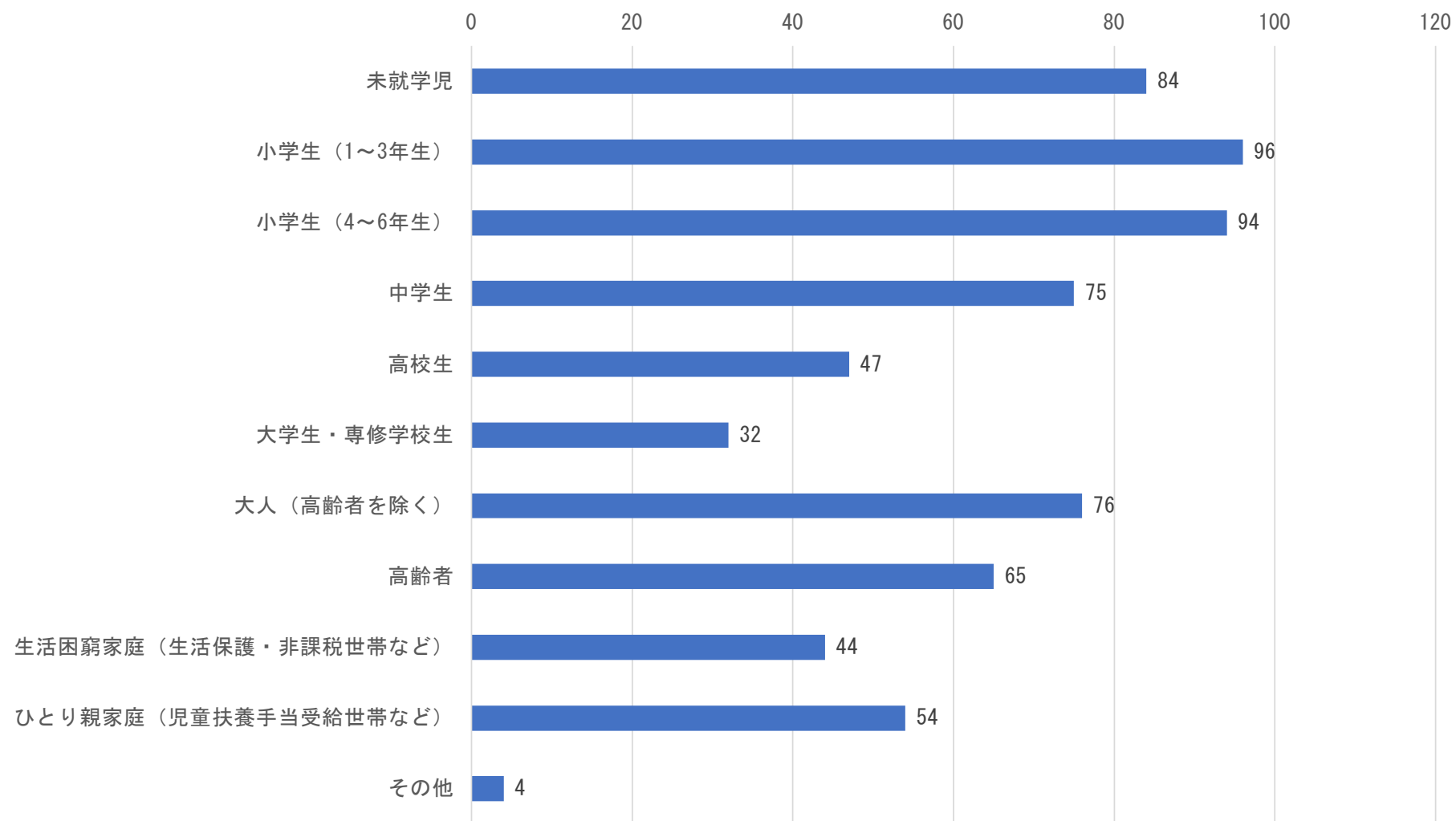
【条件内容（参加条件がある場合）】  
<n=24> ※該当すべて選択

参考：2021年調査  
(n=21)



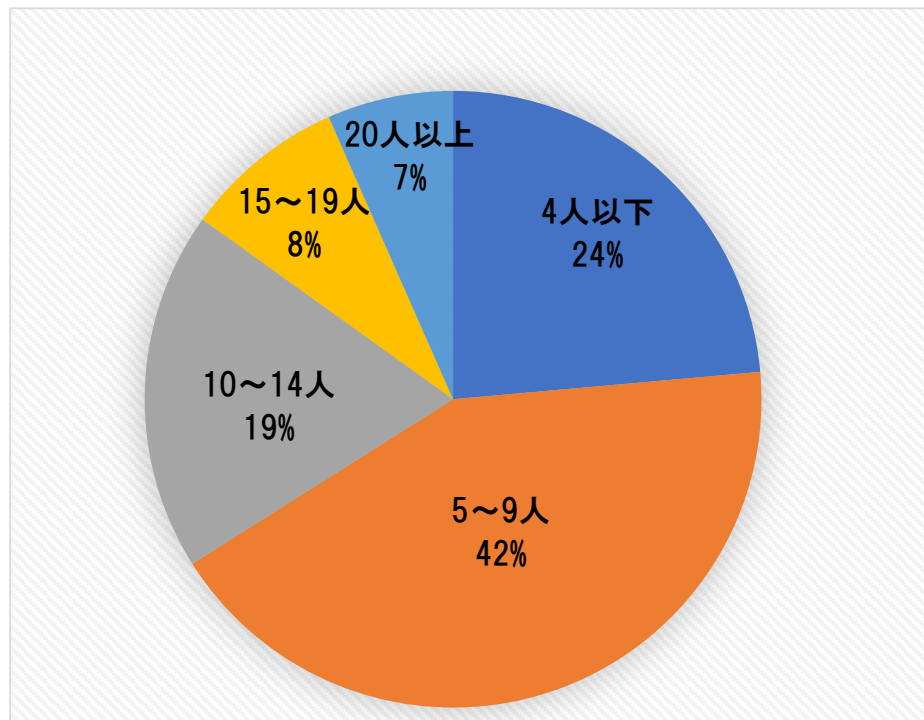
その他の主な内容：校区内の児童生徒のみなど

## 1.1 参加者の属性 <n=671> ※該当すべて選択

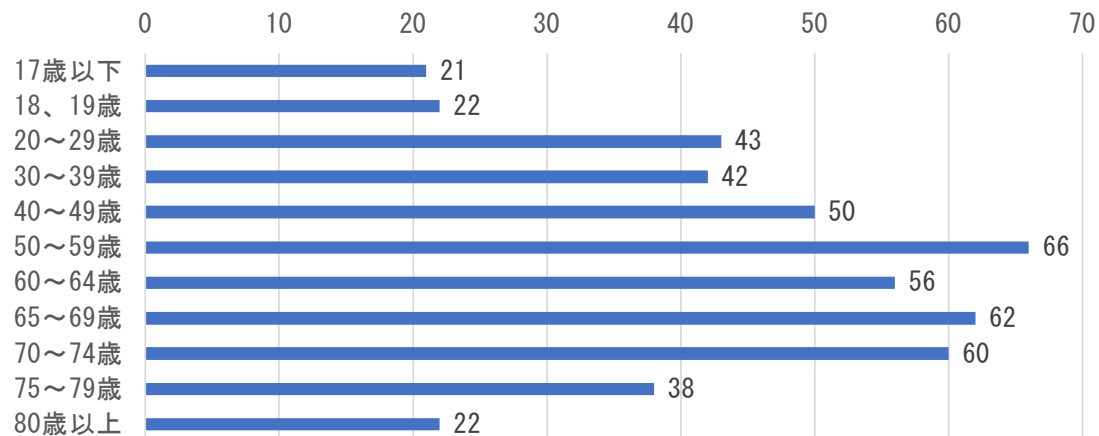


## 1 2 運営スタッフの人数、年齢、勤務形態について

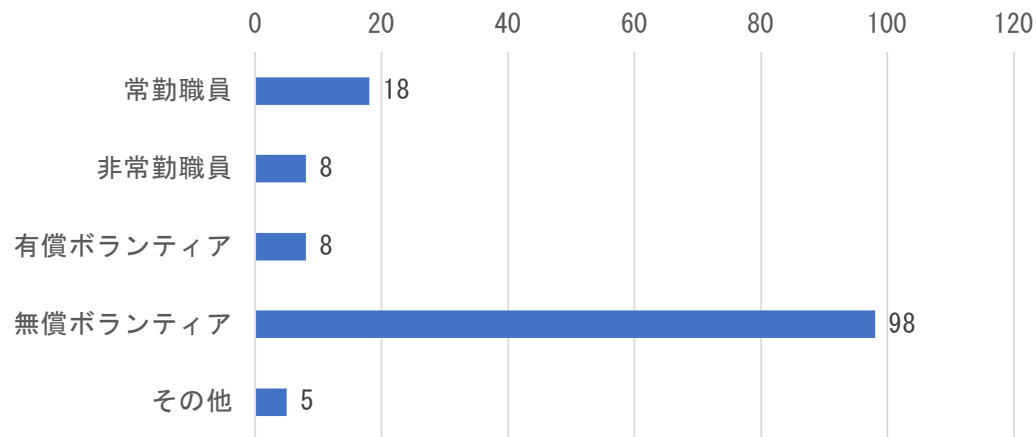
【1回あたりの人数】 <n=106> ※1つ選択



【年齢層】 <n=482> ※該当すべて選択

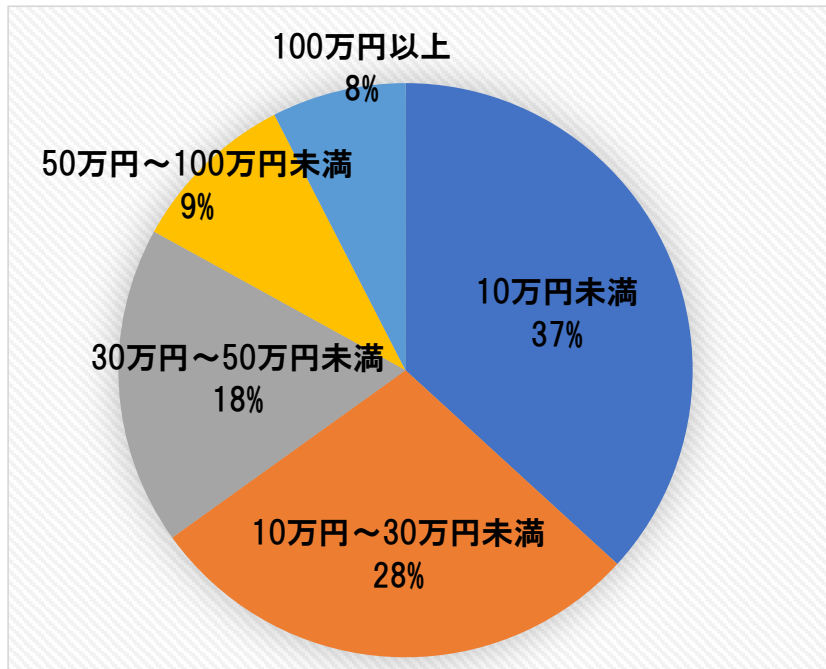


【勤務形態】 <n=137> ※該当すべて選択

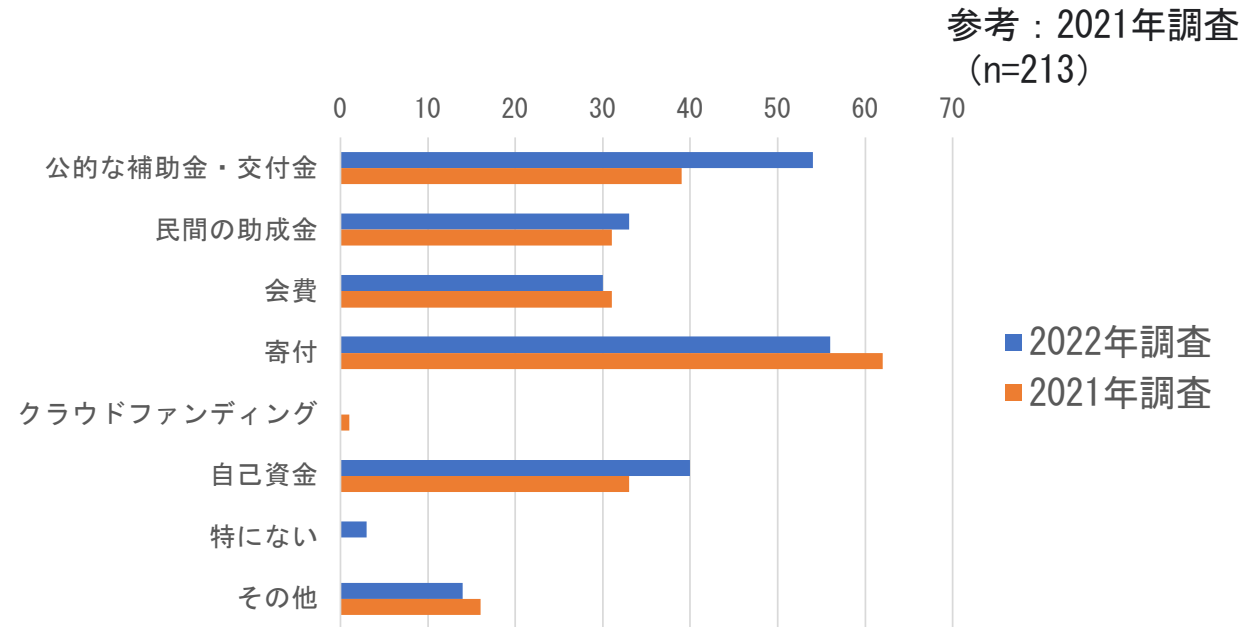


### 1.3 運営費について

【年間の運営費】 <n=106> ※1つ選択

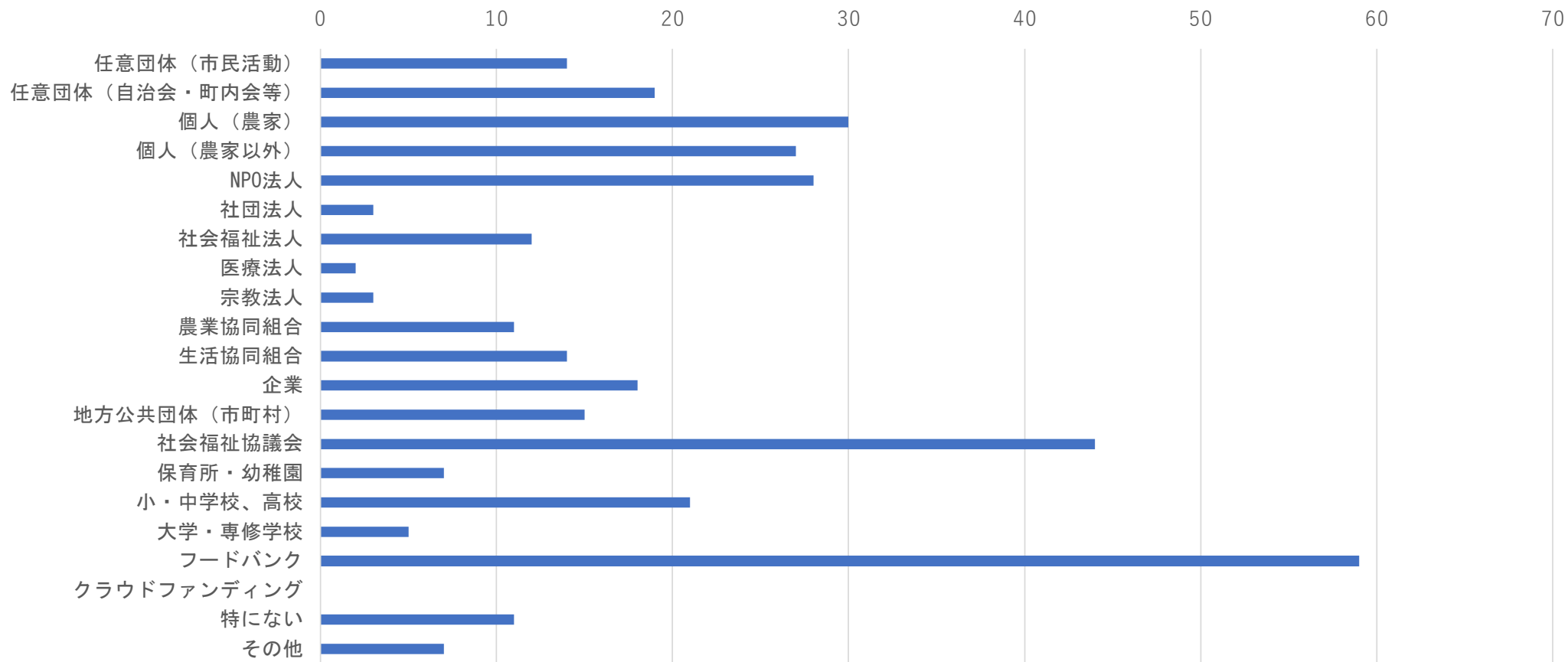


【運営費の財源】 <n=230> ※該当すべて選択



年間の運営費については30万円未満が6割以上である一方、年間100万円以上のこども食堂が1割近くある。その財源としては寄付が最も多く、次いで公的な補助金・交付金、自己資金であった。

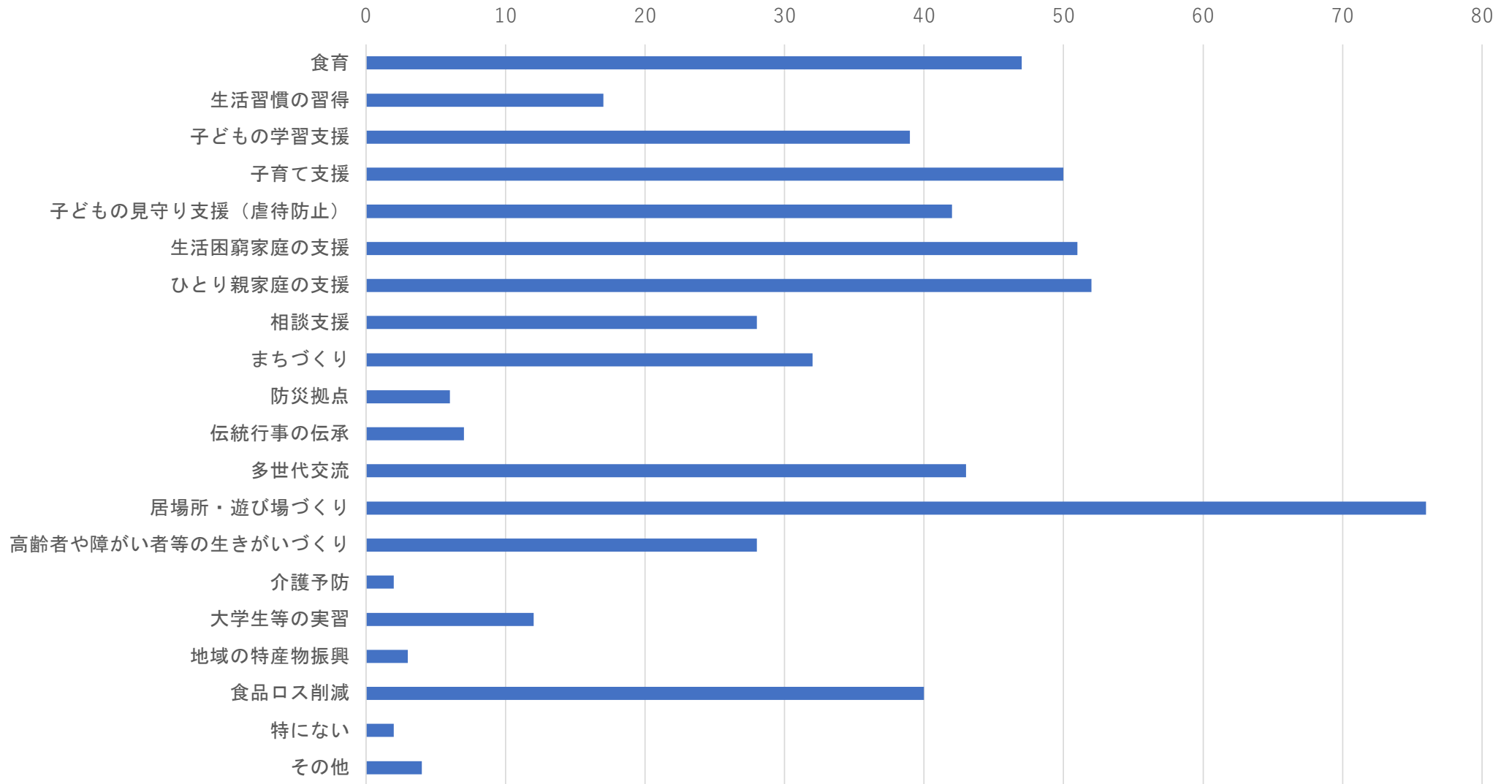
# 1 4 食材の寄付や広報などで連携している団体の状況 <n=350> ※該当すべて選択



フードバンクや社会福祉協議会と連携している団体が多い。

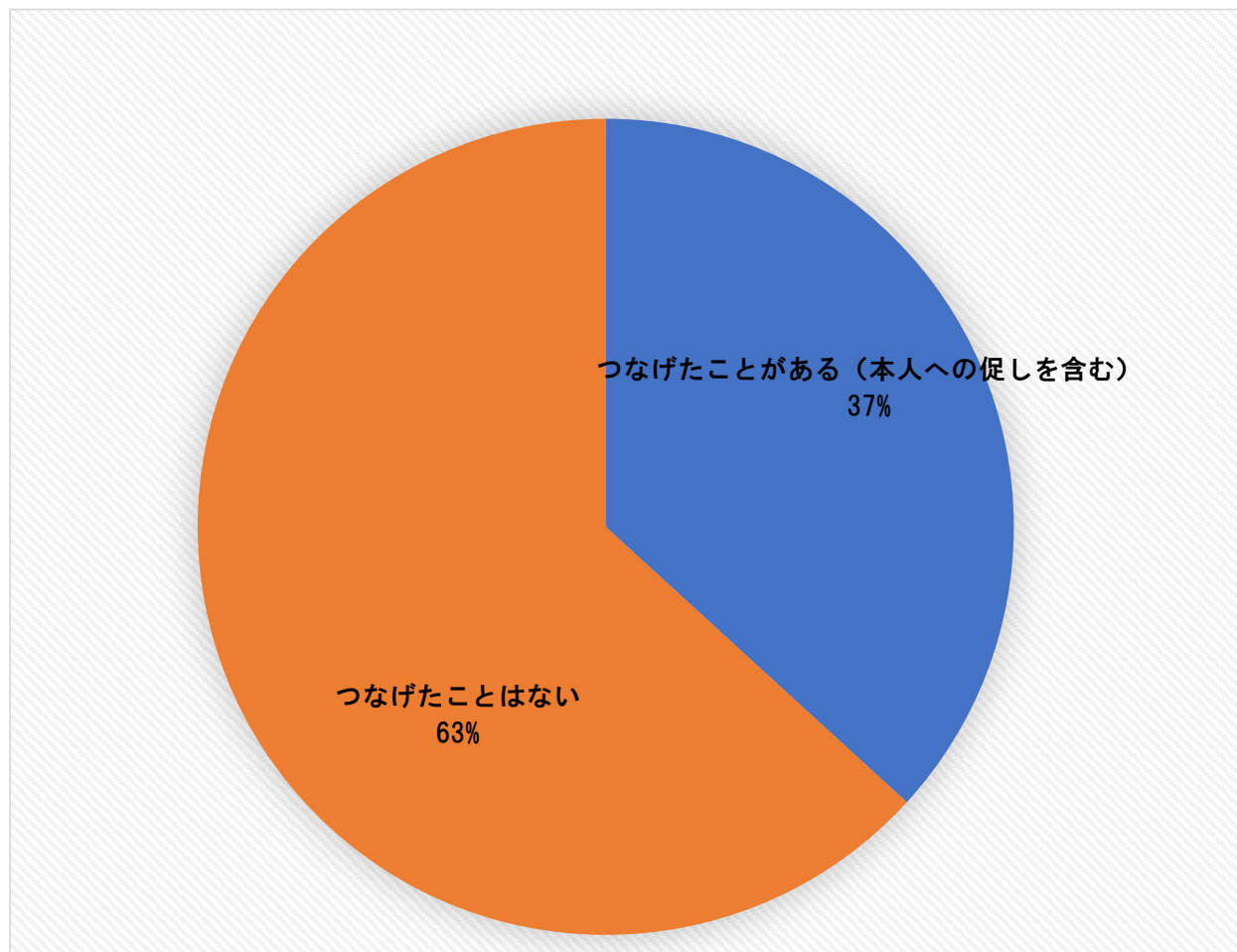


15 こども食堂の役割として、食事の提供以外に意識していること <n=581> ※該当すべて選択

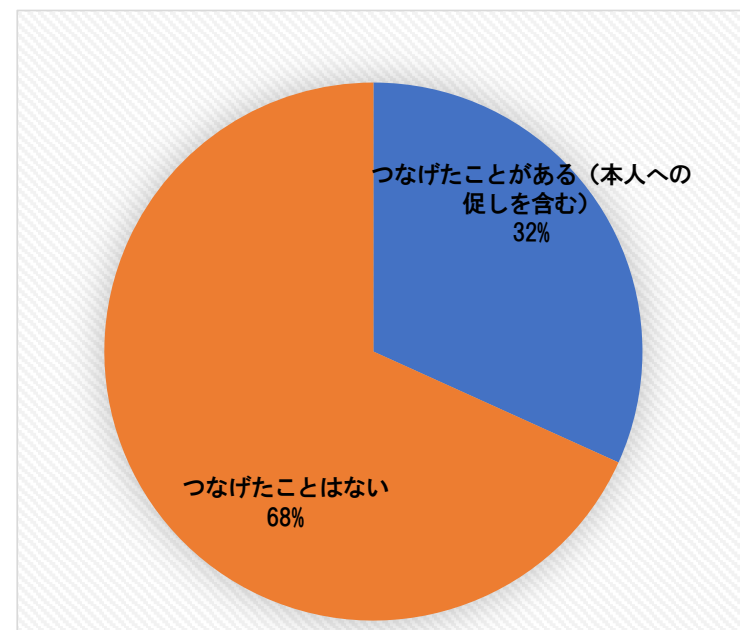


1.6 行政など支援機関へのつながりについて <n=106> ※1つ選択

【支援機関につなげた経験の有無】

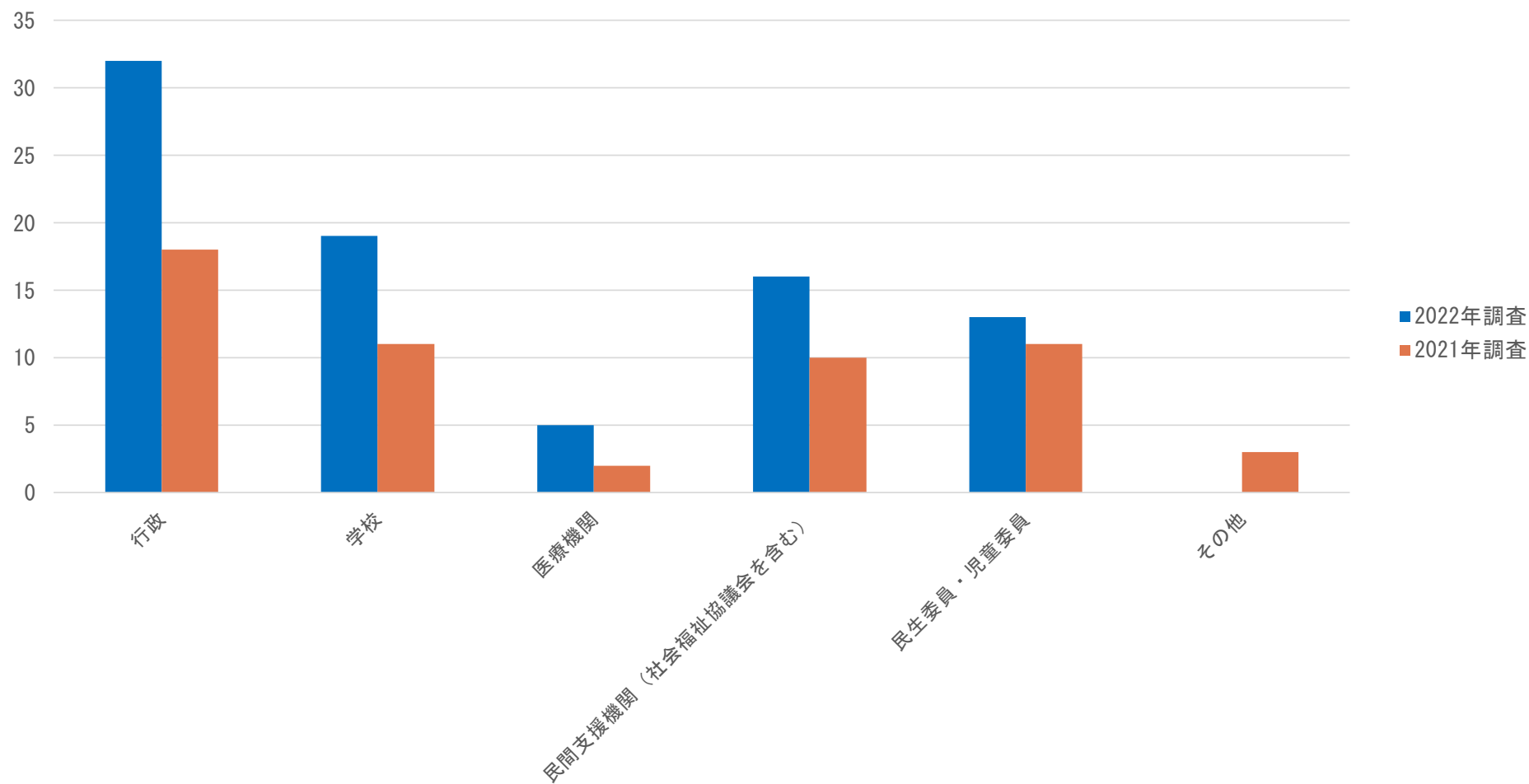


参考：2021年調査（n=85）



# 16-1 どの支援機関に繋がったか <n=85> ※該当すべて選択

参考：2021年調査  
(n=61)



16-2 支援機関につなげたことがない理由 <n=67>

※該当すべて選択

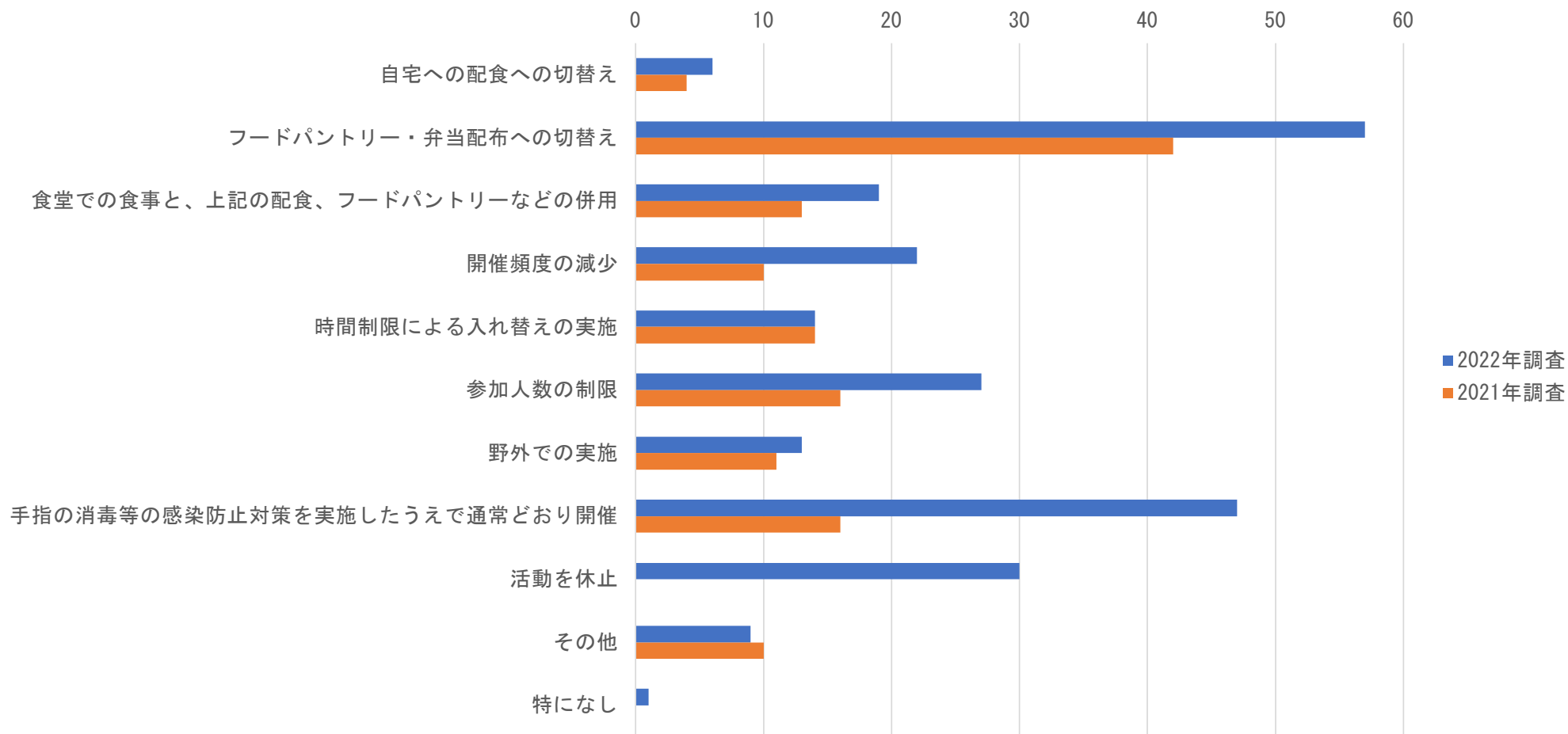
参考：2021年調査  
(n=61)

項目	今回調査 (2022年)	前回調査 (2021年)
●支援が必要と思われる該当者がいなかった	42	36
●支援が必要と思われる該当者はいたが、どこに繋げてよいのかわからなかった	1	1
●支援の必要があるかどうかを特に把握していなかった	16	13
●その他（既に行政機関が関わっていた、プライバシーに関わるためなど）	8	11

# 17 コロナ禍における活動について <n=245> ※該当すべて選択

参考：2021年調査  
(n=136)

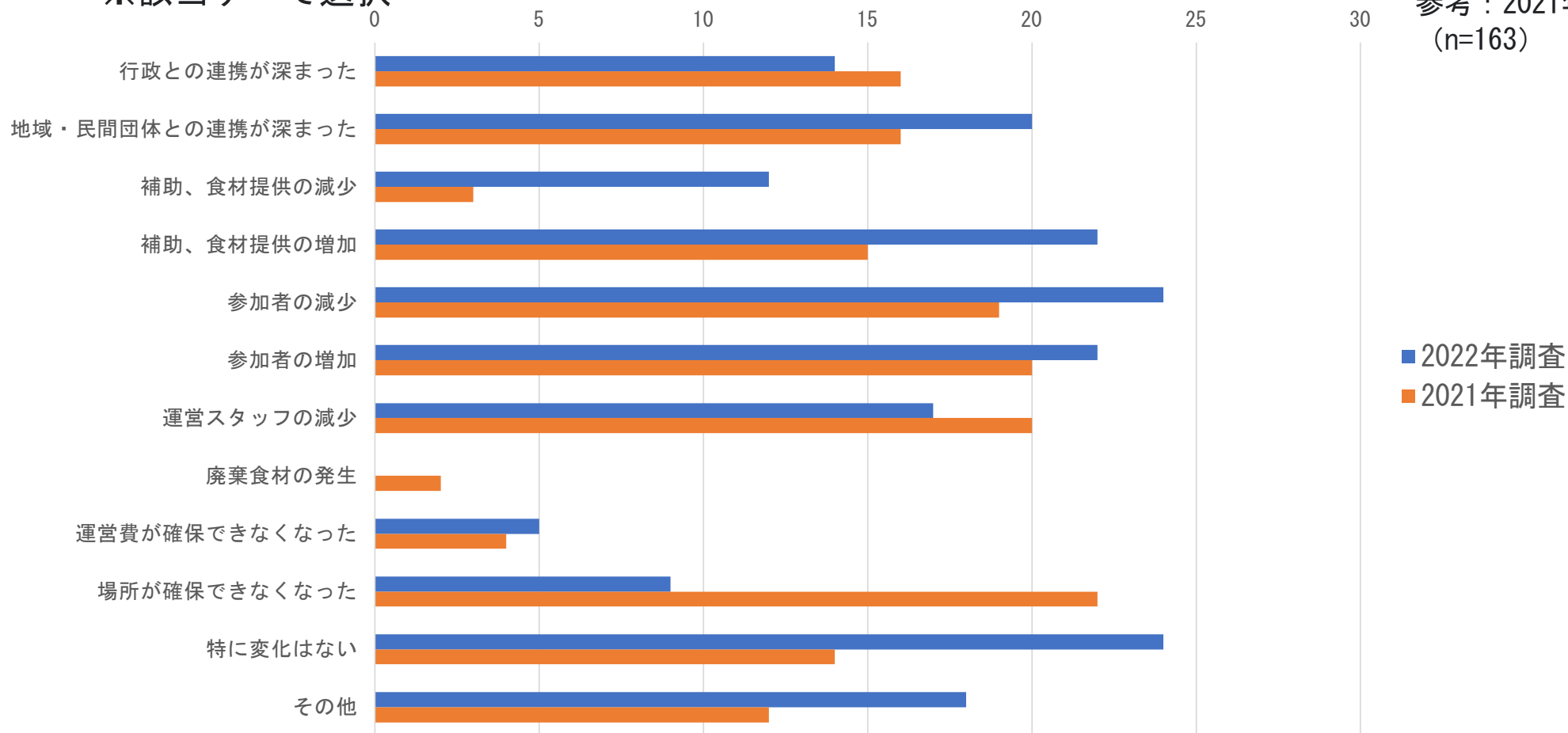
## 【新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施した対応】



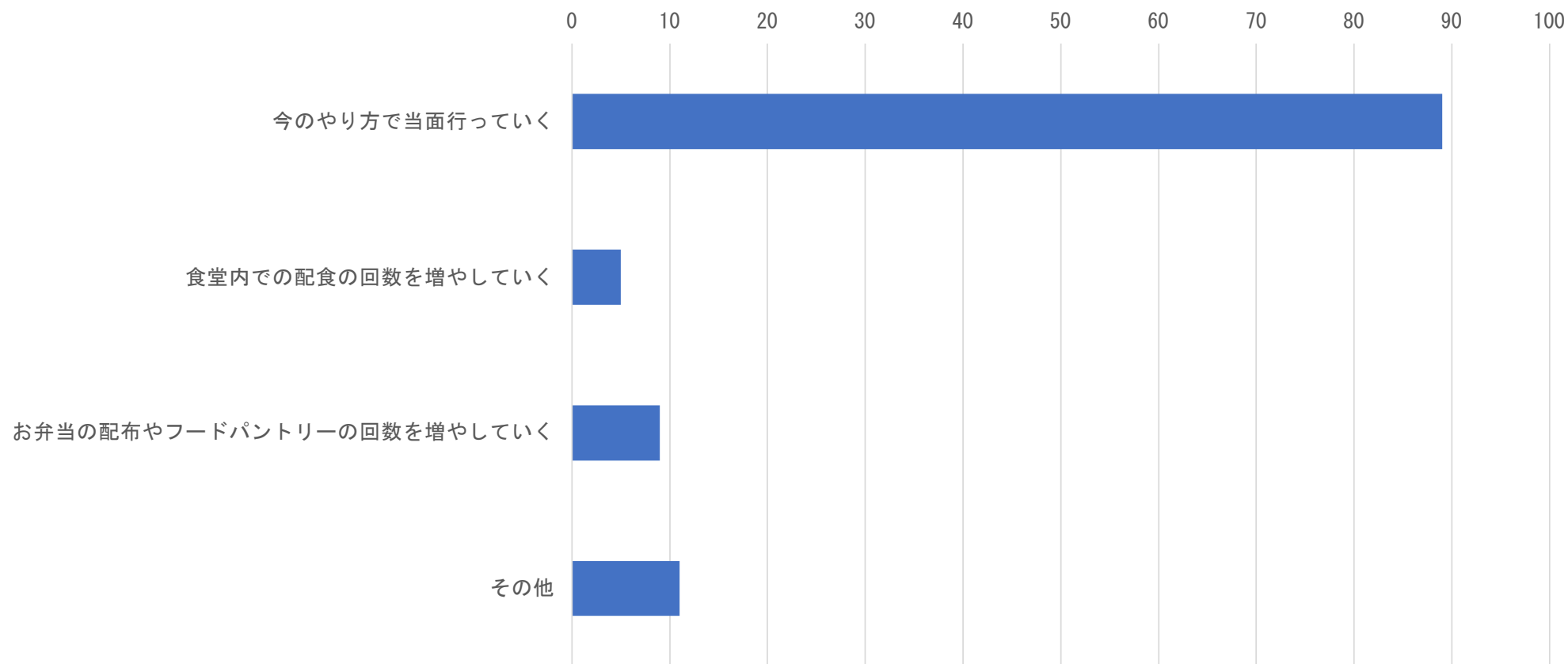
# 18 新型コロナウイルス感染症拡大（2020年3月頃）の前後における変化 <n=187>

※該当すべて選択

参考：2021年調査  
(n=163)

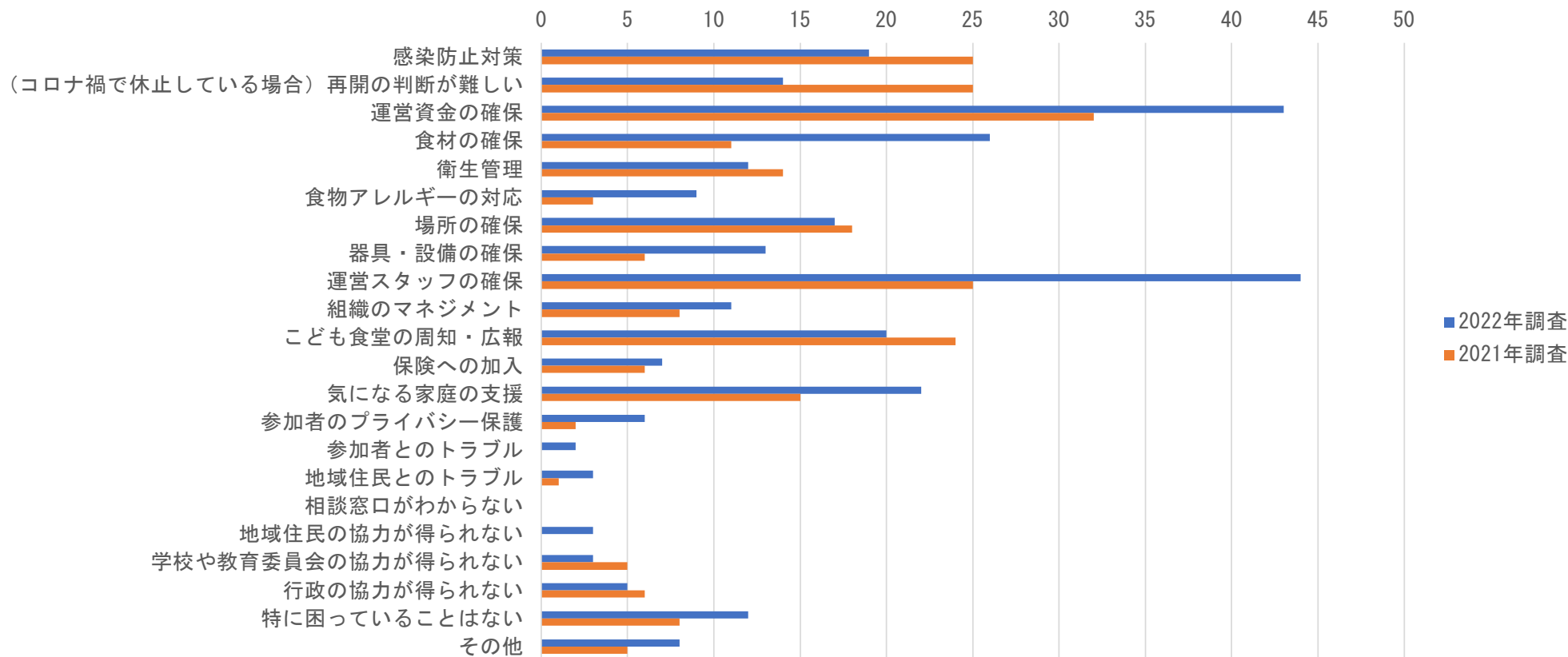


## 19 食事の提供方法の今後の方向性について <n=114> ※複数回答可



## 20 運営にあたって困っていること <n=299> ※該当すべて選択

参考：2021年調査  
(n=239)

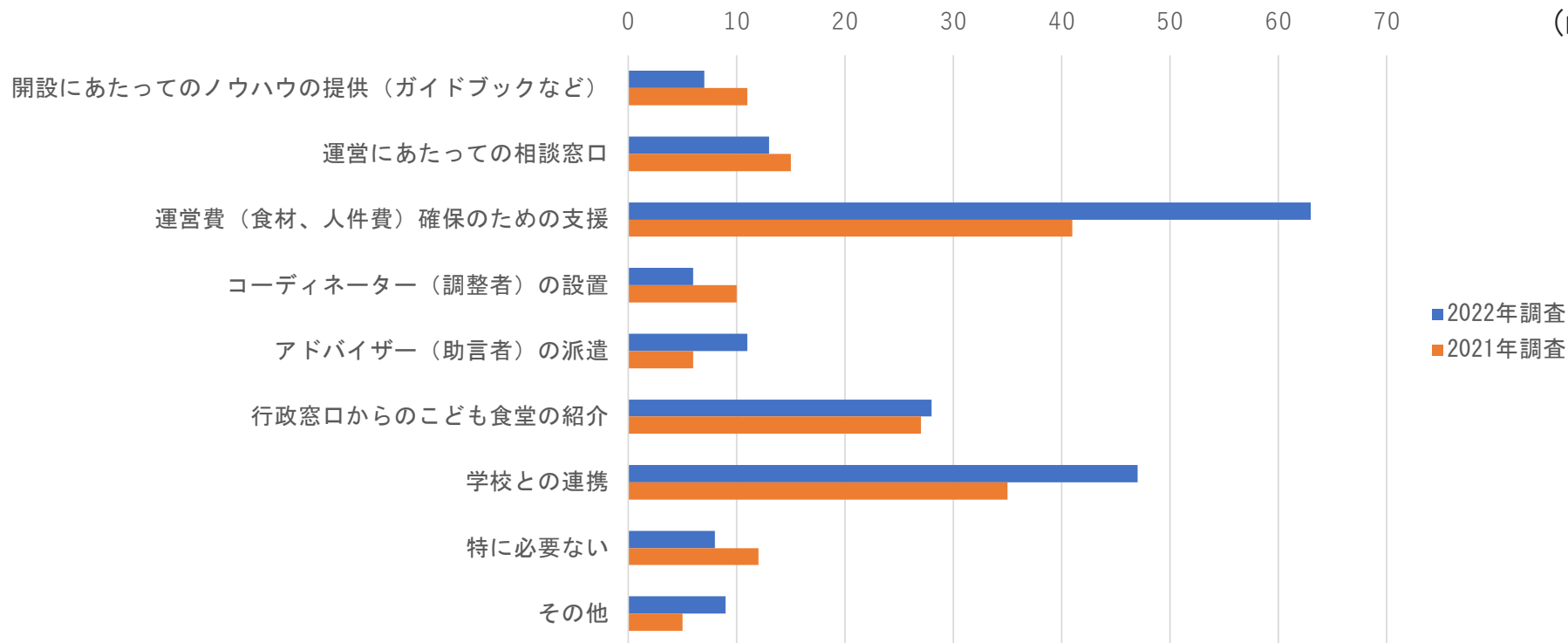


運営にあたっての困りごととして最も多いのが「運営スタッフの確保」となっており、次いで「運営資金の確保」、「食材の確保」の順となっている。



## 2 1 新型コロナウイルス感染症拡大等を踏まえ、今後、行政の支援が必要と感じるもの <n=192> ※3つ以内で選択

参考：2021年調査  
(n=162)



行政の支援が必要と感じるものとして、最も多いのが「運営費確保のための支援」となっており、次いで「学校との連携」、「行政窓口からのこども食堂の紹介」の順となっている。